



代表取締役 赤川 靖宏 氏

専務取締役 藤原 智行 氏

## 秋田協同印刷株式会社 様

<https://www.akyodo.co.jp/>

本社・工場：秋田県秋田市八橋南二丁目 10 番 34 号  
TEL. 018-823-7477

創 業：明治 45 年 (1912 年)

創 立：昭和 16 年 (1941 年)

代表取締役：赤川 靖宏



## 「改革なくして成長なし」 1,050 mm 対応、RMGT 1050LS-4 の導入で、 次なる飛躍にむけての挑戦が始まる

秋田協同印刷株式会社は、創立 75 年を迎える秋田県で最大手の老舗印刷会社である。会社案内、学校パンフレット、カタログ、自費出版などの冊子印刷から、チラシ、ポスターの印刷まで、多品種・小ロットのカラー印刷を幅広く手掛けている。地域はもちろん県外も含めた大勢のお客様に、心のこもった印刷サービスを提供し、お客様とのパートナーシップを築いている。既存設備である菊全判 4 色機の更新にあたり、さらなる生産性向上と、仕事の間口拡大のため、2016 年 5 月に導入したのが用紙幅 1,050 mm 対応の 4 色印刷機 RMGT 1050LS-4 であった。導入の経緯と成果、今後の展望について、代表取締役の赤川 靖宏 氏と、専務取締役 藤原 智行 氏、印刷部部長 高橋 巖 氏、印刷部主任の片岡 宗之 氏にお聞きした。

### 逆境をバネにさらなる飛躍への あしがかりに

1941 年の創業から 75 周年を迎える秋田協同印刷株式会社。その成長の歴史には、常に「改革なくして成長なし」とする企業姿勢が貫かれている。長引く市場の不景気の中での受注量の減少、2005 年に始まった市町村合併による自治体からの仕事量の大幅減少の影響など、同社を取り巻く市場環境は当時大きな変容を迎えていた。そのような中で新しい施策としてとられたのが、2006 年から始まった東京市場への進出だった。秋田県の製造拠点を生かして、新しい市場の開拓を行うことがより強い経営基盤を築くための大きな一歩になると考えられた。東京市場



の進出には製造部門の強化も後押しとなった。2006 年には製本部門を増強することで、デザイン、企画から製本、

発送までの社内一貫生産ラインを構築し、顧客の要望にタイムリーに responding している。また、東京市場進出の成功とともに、2009 年には



県内トップレベルの生産能力を誇る製本部門

印刷部門の 24 時間 2 交替制の導入も始めている。こうして、東京市場進出に伴う経営改革は順調に進んでいった。「当社は常に他社に先んじて設備投資や社内の改善を進めてきました。危機感をもたないとだめだという気持ちで社員一丸となってやってきました。」とこれまでの道のりを振り返る専務の藤原 智行 氏。現在では受注の約 3 割が東京を含め県外からの仕事で、収益の柱の一つとなっている。ビジネスの特徴について社長の赤川 靖宏 氏は、「当社では現在、

1,700 社を超えるクライアントから仕事を頂いています。多品種・小ロット生産を安定してこなせる設備と社員が揃っていることが、最大の強みだと思います。最近ではグッドデザイン賞を受賞した電子書籍サイト「akita ebooks」や、ドローン撮影など新しい分野にも仕事の間口を広げ、成果を出しています。」と述べている。

### 新台機の更新で仕事の オーバーフローを解消

2009 年より始まった 2 交替制の主力機種として活躍したのが、菊全判 4 色印刷機 DAIYA



高品質な B1 サイズポスター印刷に対応する RMGT 1050LS-4 モデル

WORKS

実績紹介



高いレベルの印刷品質で生み出された印刷物の数々



304であった。7年間の合計で1億8000万回転を超える仕事をこなしてきた。DAIYA 304の更新機として選択されたのが、RMGT 10シリーズであった。RMGT 1050LS-4モデルの導入経緯について、印刷部部長の高橋 巖氏は次のように述べている。「仕事量の増加とともに、2交替制でも仕事がオーバーフローしていました。こうした状況を解消するためにも、生産時間を少しでも短縮したいと思っていました。さらに、経験の浅いオペレーターが使える印刷機であること。その点 RMGT 10シリーズは、デリバリーのエアプリセット、バンダーレス万力、メンテナンスモードなど当社が求める機能が充実していました。その中でも、これまで外注していた B1 サイズのポスター印刷にも対応できる印刷機として、用紙幅 1,050 mm が印刷できる 1050 モデルを選定しました。」



印刷部部長 高橋 巖氏

**高度な色再現性が要求される  
ポスター印刷を難なくこなす  
RMGT 10シリーズの性能を高く評価**

2016年5月に導入された RMGT 1050 LS-4 モデルは、期待以上の大きな効果を生み出している。2016年5月～11月の実績として、1日6～9万通し、20台以上を平均



印刷部主任  
片岡 宗之 氏



してこなしているという。また、導入前の目標であった生産時間の短縮の面でも、従来機と比較して1ジョブ当たり平均して約5分の時間短縮を実現。1日20台をこなすとして1日で約100分の時間短縮を実現し、仕事のオーバーフローも解消されている。実用印刷速度の向上と、準備時間短縮の効果が表れているからだ。ポスター印刷の仕事では、駅のポスターや地域の観光ポスターなど、月平均で5点以上を取り扱い、高品質な印刷でクライアントから喜ばれている。印刷部主任の片岡 宗之氏は「ポスター印刷は、天地、左右、広範囲に渡って色の再現性が要求される非常にデリケートな仕事の一つです。また、見当精度の要求もシビアです。1050モデルはシビアな色再現や見当精度が求められる仕事でも確実に再現してくれるので、大判のポスター印刷でも安心してまかせることができます。」と導入メリットを述べている。

**RMGT 1050LS-4 モデルで  
高付加価値の印刷分野を拓ける**

RMGT 1050LS-4 モデルは、小ロット印刷が仕事の大半を占める同社のビジネスにお

いて、確実に大きな戦力となっている。今後のビジョンについて印刷部部長 高橋 巖氏は、「年に2回くらいですが、コンサートプログラムの印刷で10万部位のロングラン印刷をやっています。1050モデルの高速印刷をいかして、今後はこうしたロングランの仕事や B1 のポスター、写真集など、付加価値の高い仕事を増やしていき、会社の売上向上に貢献していきたいと思います。機械稼働率をさらにアップさせる LED-UV 乾燥装置の導入も検討を始めました。若い人が多い職場ですので既成概念にとらわれずに、今後も1050モデルを活用するアイデアを現場サイドからもどんどん提案してもらいたいと思います。」と述べている。

リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社  
東日本営業部 仙台支店 島貫 浩

最初は既納機のオーバーホールを前提としてお話を進めていましたが、最終的にはお客様の仕事内容から小ロット、多品種対応に加え、B1サイズの内製化を提案し1050モデルを導入頂きました。今後も、お客様の課題解決にベストな提案を行ってきたいと思います。

